和歌七部之物

未嘉記

毎年吟

特別
イ4
3163
88(6)

貴
14
3163
88(6)

宮内庁書陵部

来来記

前和尊海業生柳本賀状

此書を来来記と号する事は後生九軍尊と称
する事海さ海のそこけなく傳みてたくしく
みあられみくさはらてをくの新しく
くるへ虫さんかをくるる面てもをれい入はうま
事をみいを初をくかをくして西国の事はをまを及
をを西国の隠まをくをくを及をくを事を聞さ
聞をくして白はぬ事ををくを聞をくるをひを遠代
ぬ秀尊をくをぬをくを聞をくをくをくをくをくを
ををくをくをくをくをくをくをくをくをくをくを

黄門定家卿の後学末生れ心とうまんてあれよりも
てしまりめ物と幼世紀者榜本業形と書
ものの可変ものなり
此者紀者行くまと得業生は天子ようやく
寮をなりとくの学もとと文章得業生と云
く紀伝儒者とは学道変法とくと明
法とい外記官勢外記とと義道とい律令概
武と云く明経とは文経と加へて漢と云
周易礼記毛詩尚書左伝孝経周礼儀礼と和
へて七経しの経とい明法道法とと和寄得

業生と云い無中く業形い業之の風と云
又形恒の風と人人九の風もあり此くを以
者と作るものく儒者よりて和寄得業
生と書家利

春

年の内ふ春きたりて一色よりて仏能じ寄れ山の
桜華い古今九年紀ちと上源寄れ大概ある法
為二句不寄歌しと云ら初く結句云句まてと

はまのくさうの指藉はしをもて一よせ二よせひかれて
もしあまのうなうなるやそうせをとれぬくのを
いるとをさ一ぢをとうんいろ
れ出る濱の氷とさいは山ぢよりあうこひらの岩
色ハ萬のなみのくれ氷れとけてなとれるや
岳をとうんと云事とうしもと本事いあうし
く鶏雲なる事くゆ乃氷とさてとけくう
秀白ハ松ふるしうと萬の岩ハ岩乃うく
ひとをれやうしゆ氷くせんとうるや人
うう歩へ

たう岳といとりと蕎麦の枝のひてもくまの歩乃松を一人
世事一白ハく更ハ更ハ初てさうみを
ふくハうとうとう秀事よりもとハくまてて
けあうのあうを麻よはふなる物と趣のくを
毎人一ぢ花事のうくはくよ落花るく行る
うや兵ぢうんと行ふ麻く
潮うれ白雪ちさ若ふまとれ衣とさそうれ物ん
白雪ハとさえ世ハの物きとこの衣とうう麻
ハうとこ世とうとの衣ハ事物ハくかく
ふ事ハうや当ふ神源とうく物

[illegible]
の衣のはしの白きを見まほしうとて[illegible]物
の言ひかけし[illegible]の衣よりはせうぶ
くはさ[illegible]ぶく[illegible]一句[illegible]の[illegible]
むらくかうへさ[illegible]と云句又ぬしうと
[illegible]の暁けて[illegible]梅とへやかうん
[illegible]人もこぬ[illegible]の[illegible]花とわてけ
[illegible]と云[illegible]の[illegible]とうもゆ[illegible]
くやさ[illegible]海[illegible]暁[illegible]
てへやかうん[illegible]又[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]花[illegible]方[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつ山のくもひろくしてとらひろく塗こめ
こしに月影しるくやみえさせてもかなしき
らをして

河ちかきやさ月のよの雨とあるしやうれたるなのく
この三句をとりけすべし初句はみれ句なるべし
及ばるるやや

おもかへしの新こうしの形にて黄ばみたる紙に書の文
字文字をゆるとりかれ長くもしるしの紙
乃事にもしるしとて紙のうれ長くつきそう
初も詮なくやや

清らくさ野寺と板のまれなる宮島都のかたらひ
光源氏さ乃りしよ様しうしと野寺
を板もいくまのうちの河ちかのかたるも
ものさとかなしくや風ふきて初ひとり
よ様かたらて

月雨よ無常寺立ての上にかゆこの音さ
志賀の海なこは静なるやうよこくして不
ものの組合の上にあるたふるとこそ心も
初さよ様しうして八月夜のよ様のこと
なるをもんゆうを

是ハ秋うつる村竹そよぐまつかゝる
ゝれハ秋うつる村竹そよぐ
秋白露ハ
おりしろ
ゝれ
ゝ
ゝ
ゝ

のこりなくつゆ[illegible]

秋

鶴のめう藏や衣の紅明る神なびとの秋の山風

とりやゝ衣のわさとしきんゝやまうゝ

わさ物又ぬきしうゝ神なびとのつきも

あらはるゝ[illegible]

みもうひ[illegible]

さ遠ひらさうゝ秋とをきしらや衣とちの移ひめ

かうしさうめう秋とをきしうゝ[illegible]

白山の初やゝ[illegible]

まくうかうゝ[illegible]

[illegible]山のかすひと[illegible]

とゝ山[illegible]

[illegible]稲[illegible]

のひゝうかゝ[illegible]

秋[illegible]

[illegible]の[illegible]

とゝくよ[illegible]

但の象潟人のんかすとうとうとあうと
いく秋月秋夜ほと新るしめめれて想て玉明の庵
ぬるとて物ものしかすもつてさ秋しうとをる
れ庵又同与も無会すうとを
みう野れ秋冷しさ久書ちとて吹学ふあうしさあう
玉野れ秋もしとれうる歩ていく秋を
さものしさうもうとうとをるもて吹風
もて行くんさと吹とて吹くく又風とれとんれ
いうれるやもて吹風と学ようとあうくとをれてこ
をるうとを

秋そうし寄のようふ風初て月吹ひの鶴れうさ
ゆりそうしうしめうもて風ちてみいあるや
月吹ちひとれやようもて
ち家れ行ちふかるさ蟋あしとう秋いられけく
胡の家もちを分うくとう屋しまれそこるんれ
年ロ初しくうてあうけうてさうりくを
ひれようて行れ也ちも海くうあうを
垂そもう海うれ筆のうとにふあうう家れ屋深れき
菊のうとやれ山ちこうれ下の白れち深菊る
ちうれてもやもて也の理文たうれうれて

竹秋ハ七月つるとあれども（竹の秋ハ九月）
おく秋とをくくみてこゝもひいるとそも月を
山ちかくこし初て時くれかゝるこの屋
ゆや行ん人ハ秋の草枕むとりん事を
思ふらや

冬

山ゑ時雨ふるなさ一しきりさゝ山ゑ
山ゑとゝ行ふ人ハ冬ハ

さ秋めるこゝや高山ゑ山ゑ桜ハ風ふくゆ
山ゑをとゝ屋大ゆ見いくゝえて来年ハこゝ
いくゝとゝ人ハ行ゑてゝ帰ゆの孫なくゝや奇ハ
孫の初なゝてゝ海ゝ屋ゝゝく感屋
乃年ハ行ゑされいか屋ゝなゝいさゝゝ
ゝゝされゝゝ又ゝ年ゝ花のまゝ

遊芝屋新拾ゝ行ゝ山ゑ泊ふとゝこの屋ハて
みゝ芝やゝゝ行ゝ山ゑゝゝゝゝゝ
屋ゝ衣ゝ屋ゝ人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ屋芝の海ゝ奇ゝゝ

今朝はかすみよ秀句ぬしなるや
風ぐるま苦乃枯葉よりうゑのこすふいの事れ夏の浮橋
うしとあるーの枯葉しかく流事ありうく
あんとのんうくうくかん寒しくや行もん主用の
ちうりまや 西行の奇とこれそう
東こ時波の多浦風よ吹也さうく浦のうしまま
よこうたくまうくいは也と常ようぬ初人
波ドれ多るのドれ今よいく吹也さうこれ初
俗とはうくく葛のくこのやうくやあうさ海びい
ものやうも也めまよこうこのうしう海也

はうくやうさ奇をとはうくこ事ハうあ
あうくはうを作んとはあうこ也ハ賢のこ
へをいあもうこうこ事ようこて
はうこ事うこはうこふこうこうさはうこまの海ふこうこ毎永風て
はうさはうドのはハ春西ハ秋ろこはうさようこうこと
ひうハ鶯ようこ春ハうこいうこうや海毎ふ流毎ふ五月雨
うこうこあうこ鵜ようこあうこうこうこ行れ秋
やようこうこ古鶯ようこハうこうこうこうこうこ
春ハうこうこかんこてハうこうこうこうこうこ
なむ事とはうこうこいひ毎うこうこ秀句と
ちうんうこ

雪ふりて曉かたく入そのよ月の山
ふもとの朝霧はれぬ
はるかぜのふきとをかぬ
の山鶯のまくらにうぐいすやはのく
ひさしのあまれるくらくあかつきの雪
まくかるこの雪見ぬ
うすくなりしとれとなくかとこの
ものしそうやくくしく
入りなるそ初へそふる雪もよ
まちくい春の雪

白雪とあはしかの
此年二句ふんもとれ
雪あんさりやはんなれと云はく
よそうこと
里家れ数とる孫の
さる孫の雪中とたるくと書
のたり　そ初てきも
ふるとあくしひはくと
屋行ん
雪山のふもとの松の

ゆふとゝ云ふ所ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

ゆゑ　但又何よりはやん

藤枝　いたやのはしはなれ　ひつてまあいとれ　ものうり　道
百姓　ものうりのまつ　はしの大屋　ひつ　はしひ
ひ　はめ　くり　ひ　ふたしきねこ　ひ　ひ
御ひ　沼の宿　はしひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　

ちさとの四ちんすう[illegible]
四ちんとなる為云家潛の寄しより[illegible]
[illegible]と[illegible]と[illegible]
[illegible]字[illegible]
[illegible]
[illegible]

見い松と呼毎月ごとにうるはしくやとそれる
さゝ波のうつ吹くるまてはつゝみよしてはつ
ゝ桂川の村萩秋ごとに見て人の分れ山ゝ分
道祖神　家隆
とりつゝ海はあまりうるはしくて遠き音と云
ゝ所代々加賀実行之しまして法しの
音とゝ聞かとうつゝ山へのとゝ聞ましめんと
まゝ前見とゝろ行よつゝ事まゝ

雨中吟

法十七首未来記同前は行基と別ゝ此
名と雨中吟と号ゝ事尤可尋得細
ゝ所は名はかゝ神ゝ神のかゝ
とゝ神ゝ神ゝ雨の神ゝ闇明ゝ
神ゝ風神ゝ雨の神ゝ闇明ゝ
とゝ（なりたゝ）神ゝ霧毎月物ゝ
ゝ桂ゝ
ゝ
ゝ

草庵をしつらひ、ものさびたるまうらに、
きてらんやうに、ものさびたるのわたりにあらぬ
ものくさとりみだれ
たるもあはれなり。ここゆゑ、あるかなきかの心地
をしたひ、ふかくあはれ、ものあはれと、雨中
のながめにて、雨中とはいとかなしき
中とあり。きとゆゑあるにはあらねど、しかして
物哀れなるものなり。又切り続き心もあはれ
なりみかきとしんてをとをとり
もとめ中ながらの盧山雨夜草庵中

うたとはいとなつかしく、又後撰に、
前栽に対する　寂蓮法師
みまつ対面なりけるかなしさ
きりぎしもまれなるのさびしさ
感じるわたりなりて、海をへて、
物をうとしみてくるものの風
つくりなりしさやうのまはりの風物
なり。さて、雨の中、ものあはれ、
物の後世のこいみの初と、ものくるしく心をなやま
業をうれしくして、前尾をあ

ちくてさいまつらんとしてこの事風雅
はあるべきと嘆きて数と十七首よりこの
らあるべきかたなれ十七条の法愚法とぞ
ぞ義と

まくまとりえてとさ月ちもあみやぬの萩の事ある
此俳諧いりしまくらて月のたあらうも萩の者
の雪ゆうかかるしきとあるうやたしさも
ぬしあうも文よたりあるやすしを付よ下
白れさ海うまうしらぬ萩うはしてそしは
風とうまんるす西海の理くそまと所を重て

あてて所くせんとうあるさ宗家
つの近代の百首河内も後鳥羽の事い安ら
海へさとるの通てらまとはくうんとうあ
る事のさ海ちうあるとの所ちへ
ちのとへへ萩れあはへ
けあり所の通てと西ちて風るるへ村角
先海のう旅業ちうを大ちこ村ちとさ
る村角風寄ちてたちさ海ちいち無作ら
ちさとさとちりてはちうやしな
ふちあるへと角風の吹ちる月へ地ちに

く熱田(あつた)なる所にて作りそへられ侍りし
寺と聞(わん)しかの寺とは今の山の道
なる成け神宮(かぐ)寺なるべし世の移り恨(うらみ)無つと
そんく此寺いつくしき寺の風神(ふうしん)く
爰にしき寺ぬ和山の麻(あさ)ぬ松の姿(すがた)
此寺のしき寺にいとなくしたるなんと添
よいしくしるに形(かた)く麻(あさ)ぬ松(まつ)ゆ
みとさへさ寺とあり一の寺くしき寺ぬ
さ山ぬしけるしあり山さへ愛賞(ぎしやう)と云
程なくしるに物にいて何しるとあ

ゆるやうあり一首と作りて風神のあ
なひたるへさして何道の寺も流れしてて
の心とる別さへさ物くされたて風しあり
て美風ぬを風ぬる感へさよて世上ぬ人
のさ為と風神ぬ者ぬ者ぬ者ぬ
并しるる物にて何道ぬ者ぬ者ぬ
へさのん花ぬ

秋ハ行雨い京ぬ物しるて神のしるけ名れの元
白ハしてぬ物しるていぬもはしるる
のの物ぬ物ぬ者ぬ神の場ひのあるして行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるとうさとう義之は未及すなる事も同
物をしかして物のうしも実は作るなる
い雨中のさ後前事云うとく言別なる
ものを百年はなるとはいつへし光うを未
九月みかさ紅ぬすもあやうも日なる事
しもくさ事成雨中の時と愛憐をさ
物ものを

清重くさ山清家けさ秋風日新ひとるはすは言北
一二の白い冷しさ物と白いあうと彩る
うをうり無てまよ秋とひいうし秋よ

まとと結ひてうあうる事い常のうとさ物
感うてうもう曲るうや時事寒うさ
山うか秋風吹たんいをさのうちうる
高くさううと地うへ日新ひあ迷くうう
ううさ海し信ぐんうをこさもくうるあいさ
今ううく物むううこさ事うう例うう
初ひうひ白れううるいうてうなれ
たさ海はいうしあうと秋事いうはは事れ
と事れいうと事と云さ海ますや雨雲うはい窮明はる
うへうはうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一二の白ちん[illegible]ゆるゝ心ハ生面の[illegible]

して少[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奥書云

此風雅とゝのゝ[illegible]時ハ[illegible]道のと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此[illegible]